

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2015年10月26日～2015年11月1日】

[当地報道をもとに作成]

平成27年11月20日

在ジョージア大使館

1. 外 政

▼NATO週間(25日―11月8日)

・25日、NATO・EU インフォメーションセンターの開設から10周年を祝う式典が行なわれ、マルグヴェラシヴィリ大統領、クヴィリカシヴィリ外相が出席。

・26日、クヴィリカシヴィリ外相はジョージアを訪問中のアパトゥライ NATO 事務局長特別代表と会談。実質的パッケージの実施プロセス、来年のワルシャワでのNATO 首脳会議、アフガニスタンでのNATO ミッションへのジョージアの貢献、地域情勢などについて議論。

▼EU代表部の声明(26日)

・在ジョージア EU 代表部は、全てのEU 大使との合意の下で、政治およびメディアの多元性はジョージアの民主主義と欧州を目指す選択に必須の要素であり、ジョージアのメディア環境に関する動きを注視しているとして、「ルスタヴィ2」をめぐる訴訟に関して懸念を表明する声明を発表。

▼外相の訪独(26日―28日)

・クヴィリカシヴィリ副首相・外相が訪独。シュタインマイヤー独外相、ホイスゲン独首相補佐官、ペッテリング・アデナウアー基金理事長やビジネス代表者らと会談。

・「シュ」独外相との会談では、ジョージアのEU・NATO 加盟プロセスおよびそれに対するドイツの支援に焦点が当てられた。会談後に行なわれた記者会見で、「シュ」独外相は、「ジョージア・EU の連合協定の署名はジョージアを欧州に近づける極めて重要な道のりの始まりであった。ドイツはその接近のプロセスを支援する」と述べた。地域の安全保障状況、ウクライナや中東の最近の動き、アブハジア・ツヒンヴァリ地域の状況についても議論。

▼国連人権理事会の選挙(28日)

・国連総会での選挙でジョージアが初めて国連人権理事会のメンバーに選出された。任期は3年。

▼外相の訪米(28日―11月3日)

・クヴィリカシヴィリ副首相・外相が訪米。アンドリュース米商務次官、コルカー米保険福祉省次官補、フロマン米通商代表部代表、米議会議員らと会談。大西洋評議会で講演。

2. 内 政

▼イヴァニシヴィリ前首相の発言(24日)

・イヴァニシヴィリ前首相はTV インタビューで、2016年の次の議会選挙では、立法のプロセスに通じた専門家をより多く国会に送り込まねばならないとして、現在の与党連合議員の少なくとも半数は交代するだろうとの見

通しを述べた。

・最近発表された米国際民主研究所の世論調査の信憑性を否定。

・「ルスタヴィ2」をめぐる訴訟については、個人間の訴訟で政府は関係がなく、統一国民運動と同TV局が政治的な目的のために騒ぎを大きくしようとしていると批判。

・統一国民運動についての22日の首相の発言を「感情的すぎた」とする一方で、その後の大統領の声明については、市民対立の兆候は全くなく、裁判官がいかなる判決を下すかを指示する権利はないとして批判。ガリバシヴィリ首相を高く評価。与党連合の大統領候補にマルグヴェラシヴィリ大統領を選んだことは間違いであったと述べた。

▼大統領と国会議長との会談(26日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領が大統領官邸にてウスパシヴィリ国会議長と会談。大統領府によれば、両者は「現在の国内情勢について議論し、対話の重要性を強調した」。

・「ウ」国会議長は、大統領との会談は何ら特別なものではなかったとして、非常事態を導入するような必要性は見いだせないとして大統領に対して伝えたことと述べた。

▼大統領と「ルスタヴィ2」元所有者との会談(27日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領は、「ルスタヴィ2」の所有権をめぐる訴訟の原告である元所有者ハルヴァシ氏と大統領官邸で会談。「ハ」氏が会談を希望した。「ハ」氏は大統領の代理人を法廷に派遣して裁判を監視するよう要請したが、大統領側は裁判所に対する圧力と受け止められかねないとして拒否。大統領は落ち着いた状況で裁判所が独立に決定を下すことができるような状況をつくりだすため努力すると述べた。

▼スターリンに関する与党連合議員の発言(27日)

・与党連合に所属するトバゼ「産業がジョージアを救う」党代表は、TV番組で、スターリンは偉大な人物であったとして、「あらゆる執務室にスターリンの肖像が掛けられる日が間もなくやってくるだろう」と発言。

・翌28日、ガリバシヴィリ首相は、与党連合はトバゼ議員とスターリンに関する考えを共有しないとの声明を発表。

▼サーカシヴィリ前大統領の電話の録音の公開(29日)

・10月19日に行なわれた、サーカシヴィリ前大統領とグヴァラミア「ルスタヴィ2」社長および「サ」前大統領とボケリア前国家安全保障会議書記との電話での会話の録音がインターネット上に公開された。3名とも録音が本物であると認めた。

・会話のなかで「サ」前大統領はバリケードを築いてルスタヴィ 2 を守らねばならないとして、武力衝突を通じた「革命的なシナリオ」について語っている。

・「グ」ルスタヴィ 2 社長は、「違法な盗聴」を非難しつつ、バリケードの構築については「サ」前大統領の助言に従っていないとのコメントを発表。ルスタヴィ 2 は、「いかなる暴力的な行動からも距離を置く」との声明を発表した。

・国家保安庁は、公開された録音について政府転覆の企てに関する捜査を始めるとの声明を発表。

・マルグヴェラシヴィリ大統領は、ジョージアでは「革命的なシナリオ」の時代は既に過ぎ去っており、そのようなプロセスを計画する者は政治的な現実と完全にかけ離れているとの声明を発表。

▼サーカシヴィリ前大統領のジョージア国籍停止の手続き(30日)

・トルキアナ法相は、法務省からのウクライナ政府への問い合わせを通じてサーカシヴィリ前大統領がウクライナ国籍を得たことが正式に確認されたとして、法律に基づき、「サ」前大統領のジョージア国籍の停止に向けた手続きを開始したと発表。

・ジョージアの法律では、他国の国籍を得た者はジョージア国籍を失うと規定されている。

▼中間選挙(31日)

・サガレジョ地区とマルトヴィリ地区で国会の補欠選挙が、また、サガレジョ地区を含む 4 地区で地方議会の補欠選挙が実施された。多くの野党がボイコットを表明していたため、与党連合「ジョージアの夢」の他に野党としてはジョージア愛国者同盟の候補者のみが参加。

・サガレジョ地区では与党連合のヒダシェリ候補(得票率 49.5%)が愛国者同盟の候補者(45.83%)に辛勝。

・マルトヴィリ地区では与党連合のダネリア候補(72.54%)が愛国者同盟の候補者を圧倒。

・ウスパシヴィリ国会議長は、サガレジョ地区の結果は与党連合に対して「多くの重要なシグナル」を送っているとして、与党連合として結束を保ちながらも変革を行なう必要性を強調。

3. 経 済

▼エネルギー相とガスプロムCEOとの会談(26日)

・カラゼ・エネルギー相はミラノにてガスプロム CEO と会談。エネルギー省によれば、ジョージアを経由するガスの輸送の契約の延長および追加的なガスの購入の条件に関する協議が行なわれた。

・27日、イヴァニシヴィリ前首相は記者に対し、ジョージアはガスの供給を多様化せねばならないとして、欧州の広い範囲にロシアの天然ガスが供給されており、ジョージアもロシアからガスを購入することは何ら問題ではないと述べた。

▼国立銀行が外貨を売却(27日)

・ジョージア国立銀行は外貨市場で2千万米ドルを売却。

▼ビジネスしやすさランキング2016(28日)

・世界銀行が「ビジネスしやすさランキング 2016」を発表。ジョージアは189カ国・地域中24位。昨年のランキングでは15位であったが、評価方法の変更により、昨年のランキングも24位に修正されたため、昨年と順位は変わっていない。不動産の登記のしやすさ3位、ビジネスの始めやすさ6位、融資の得やすさ7位。

▼投資家評議会の会合(29日)

・政府とビジネス界の間のハイレベルの対話を促進するため、欧州復興開発銀行(EBRD)の支援を受けて発足した投資家評議会の初めての会合が開かれた。ガリバシヴィリ首相は、政府はビジネス界の意見や批判に最大限にオープンであると挨拶。

・EBRDによれば、ジョージアのビジネス環境に影響を与える重要な問題や民間セクターの発展の更なる支援の方法について議論された。

▼2015年9月のGDP成長率(30日)

・国家統計局が速報値を発表。2015年9月の実質GDP成長率は前年同期比2.2%。2015年1月～9月の実質GDP成長率の平均は前年同期比2.7%。